

## なからぎ

179号

2007年4月

## 本の香り

附属図書館長 上田純一

もう20年近く前のことになるが、イタリアの記号学者で作家でもあるウンベルト・エーコの書いた『薔薇の名前』（河島英昭訳、東京創元社刊）という小説が世界中で大ベストセラーになった。ショーン・コネリーの主演で映画化もされたので、ご覧になった方も多いと思う。

14世紀初頭、舞台は北イタリアのある修道院。そこで起こった不可解な殺人事件の真相解明が主なプロットである。ミステリー仕立ての小説であるので詳細な内容紹介は控えるが、京極夏彦氏の『鉄鼠の檻』などはおそらく本書に強い影響を受けた作品の一つであろう。

本書の魅力について語るとすれば、謎解きの醍醐味はもちろんとして、舞台となった修道院内のスク립トリウム(写字室)の様子が大変興味深く描かれている点であろう。中世のヨーロッパでは写本制作の中心は修道院であって、多くの貴重な書物が修道僧らの献身的な努力によって書写され伝えられてきたのである。彼らの活動の一端は、例えば、つぎの文章などによくあらわれている。

このようにして、何百年にもわたって、修道僧たちは蛮族の侵入を他人事のように見届けてきたのであり、自分たちの僧院が略奪され、いくつもの王国が渦巻く炎のなかで壊滅させられてゆくさまを眺めながら、他方では紙とインクの匂いを溺愛しつつ、何百年も昔から伝わってきた言葉を、そして何百年も先の未来へ伝えるべき言葉を、かすかに口もとを動かしながら、暗唱しつつ生きてきたのだった。そうやって修道僧たちが読み進め、筆写し続けてきたあいだにも、至福千年は迫ってきた。どうして、いまでもそれを続けていっては、いけないのか？

現在、未来へ伝えるべき言葉は皆さんの手元にある。本学の図書館へぜひ足を運んでほしい。貴重な蔵書や献身的なスタッフが、皆さんの来館を今や遅しと待っているのだから。(ところで、注意深い皆さんはすでにお気づきのことと思うが、上に引用した訳文に、私はある仕掛けを施しておいた。訳文に使用されていたある一つの言葉を、別の他の言葉に置き換えたのである。ヒントはすでに提示している。置き換えられたのがどの語であるか、考えてみてほしい。)

(うえだ じゅんいち：文学部教授)

ご紹介の「薔薇の名前 上・下」川島英昭訳、東京創元社 1990年刊(請求番号 973||K||1~2)、「鉄鼠の檻 全4冊」講談社文庫 2005年刊(請求記号 913.6||K||1~4)は2階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架しておりますのでご利用ください。

## 西洋史の古典から

図書館運営委員 渡邊 伸

私が歴史学を勉強するようになってからもっとも手本にしたいと思ってきた研究は、実は日本中世史に関するものである。しかし、ここでは私の専門の西洋史に関する書物を取りあげることにはしたい。私は近代以前を扱う西洋史概論の授業で読書レポートを課すようにしているのだが、時間の関係でリストを紹介するにとどまり、それぞれの本の紹介はほとんどできずにいる。そこでこの場を借りてそのリストの中から古典中の古典を選んで紹介しておく。

T・モムゼン著、長谷川博隆訳『ローマの歴史』名古屋大学出版会。現在まで歴史書としてノーベル文学賞を獲得した唯一の本である。かつて同じ訳者による部分訳が主婦の友社『ノーベル賞文学全集』第21巻に入っていて、そちらは印字も小さくて読みにくかったが、現在、名古屋大学出版会から4冊の予定で刊行中である。原著は5巻の構想で4巻が刊行されずに終わったが、前半の3巻は共和政期を扱ってほぼ完結している。そのため政治を中心に経済・宗教・文化まで網羅した共和政ローマの歴史全体像をつかめる。著者のカエサル(シーザー)への思い入れは、批判的にもなっているのだが、その分、カエサルの戦略など読んでたいへん面白いことも事実である。

H・ピレンヌ著、中村宏・佐々木克己訳『ヨーロッパ世界の誕生』創文社。本来の書名は訳書の副題にあげられている『マホメットとシャルルマーニュ』である。古代以来の地中海世界はイスラーム勢力が進出するまで存続しており、これと対峙したカロリング朝フランク王国のもとで中世ヨーロッパが成立したと論じた名著。同じく創文社から出ている佐々木克己訳『中世都市』とともに、経済の面から中世ヨーロッパ社会をとらえたスケールの大きな歴史像は、その後の研究に大きな影響を及ぼし続け、

古典学説となっている。西ローマ帝国の滅亡とともに古代から中世に変わったというイメージを持っている人には、依然として刺激的な書物であり続けている。

M・ブロック著『封建社会』。この翻訳は新村猛、他訳でみずす書房から刊行されていたが、堀米庸三監訳・岩波書店の方がより新しいので読みやすい。この本が書かれたのは1939~40年。ナチスへのレジスタンスによって生涯を閉じたブロックの生前最後の著作である。ヨーロッパの封建制に関する本は多いが、この本は、たとえば第一部第二編の題が「生活条件と心的状況」とあるように、いわゆる「社会史」研究など第二次大戦後の中世史研究の源泉となった。「人と人との絆」から「身分と人の支配」へという中世史像は、今日まで揺らいでいない。読み物としても大変面白い本である。またブロックの『フランス農村史の基本性格』(創文社)は荘園制研究のためには古典として必読、王には病気を治せる力があると喧伝する統治の仕掛けを扱った『王の奇跡：王権の超自然的性格に関する研究』刀水書房は、E・カントロヴィチの『王の二つの身体』(小林公訳、上・下、ちくま学芸文庫)とともに読み物としてもお勧めの本である。

J・ル・ゴッフ著、渡辺香根夫・内田洋訳『煉獄の誕生』法政大学出版局。人は死ぬとどこへいくのか。カトリック教会は、天国と地獄のほかに、罪の償いをしながら最後の審判を待つ煉獄というところがあるとした。この本は、煉獄が12世紀にかけてどのように形作られたのかを示した秀作。ヨーロッパの幽霊話に関心のある方にもお薦めできる本である。ちなみに、この煉獄での罪の償いを軽く、あるいは短くしてもらえんというのが贖宥で、十字軍や巡礼の抛り所となり、さらには宗教改革が起こる原因

にもなった。煉獄は、中世ヨーロッパ社会を考える上で避けて通れない問題なのである。

B・テプファー著、渡部治雄訳『民衆と教会』創文社。カロリング帝国が分裂崩壊した後、外民族の侵攻もあって社会が混乱する中で、教会は「神の平和」運動を展開し、中世国家の秩序形成に貢献した。教会はどのようにしてそのような成果をあげることができたのか。奇跡や罰など人びとを動かした仕掛けを示したのがこの本。著者は旧東ドイツの研究者であり、先に挙げた大家たちほど著名ではない。また神の平和運動に対する評価も変わってきているけれども、教会建築の変化までも視野に入れた自在の議論は、今も一読の価値がある。

C・ハスキンス著、別宮貞徳・朝倉文市訳『12世紀ルネサンス』みすず書房。野口洋二訳で創文社からも翻訳がでている。ルネサンスといえば、古代文化の再生であり、暗黒の中世に対する近代の幕開けというのが教科書の記述なのだが、古代文化の再生ということならば、実は12世紀の方が学問全般への影響は大きかった。イスラム経由でアリストテレスを中心に古典古代の情報が伝わり、神学、法学、医学など多方面で新たな文化が発展した。印象はとっつきにくいですが意外に読みやすく、「革新の12世紀」といわれる社会発展に関する研究の出発点となったのが本書である。

E・エンネン、阿部謹也・泉眞樹子訳『西洋中世の女たち』人文書院。西洋中世の女性に関する研究は近年急速に進んでいる。その古典といえるものは、ドイツのエンネンによるこの書物と、フランスの研究者ペルヌーによる『中世を生きぬく女たち』（福本秀子訳、白水社）、それにイギリスのパウアによる『中世の女たち』（中森義宗・阿部素子訳、思索社）である。その中でもエンネンのものが扱っている時代も対象も広い。中世を通じて西欧の女性の地位がどのように変化したのかをつかむにはこの本が便利である。もっとも史料の事情から、エンネンの専門である都市の女性がとくに詳しい。またパウアの『中世に生きる人々』（三好洋子訳、東京大学出版会）は、女性だけを扱っ

ているわけではないが、読んでたいへん面白く、この本をきっかけに西洋中世史に取り組んだ人も多い。

中世の後期に目を向けると、J・ホイジンガ著『中世の秋』。兼岩正夫・里見元一郎訳・河出書房新社もあるが、堀越孝一訳・中公文庫で上・下2冊で出ているものが手に入りやすい。中世後期の14・15世紀のとくにネーデルラント（ブルゴーニュ公国）の文化・社会について考察した本である。J・ブルクハルトの『イタリア・ルネサンスの文化』（柴田治三郎訳・中央公論新社、新井靖一訳・筑摩書房、こちらも著名な古典である。）に対抗して、中世文化の豊かさを描いた書という紹介を読んで、高校生の時に本書を手にとったときには、極端から極端へと走る人々の喜怒哀楽の激しさに始まって、愛や死など文化に関する様々な話が渾然一体となって語られるのに、とまどった。しかし、ファン・アイクたちフランドル派の絵画について感性の背景をたどるという意図を押さえると全体像がのみこみやすい。

L・v・ランケ著『宗教改革時代のドイツ史』。この大著は部分訳が中央公論社から渡辺茂訳で出ている（世界の名著、続11巻）。ランケは近代歴史学の祖とされる人で、この本も1839~47年に書かれた古い本である。いまさらランケでもないだろうと思っていたのだが、実際にあたってみると、これはいまだに活着している古典といわざるをえない。もちろん都市の宗教改革運動にしる、農民戦争や信仰統一政策にしる、個々の研究は大きく進んでいるのだけれども、この本はその後の研究が論点とするところをすでに押さえていた。しかも宗教改革時代の事件全体は、これを越えるものがいまだ見あたらないというのが実情なのである。

この他、紹介したい本は多いけれどもすでに紙幅を超過してしまった。関心のある方はお気軽におたずねください。

（わたなべ しん：文学部教授）

## 渡邊先生「西洋史の古典から」

- 「ローマの歴史」(3巻既刊)名古屋大学出版会 2005-2006年刊(請求記号 232 "M" 1~3)
- 「ヨーロッパ世界の誕生」創文社 1960年刊(請求記号 230.3 "P")
- 「中世都市」創文社 1970年刊(請求記号 208 "R" 10)
- 「封建社会」みすず書房 1973-1977年刊(請求記号 230.4 "B" 1~2)
- 「フランス農村史の基本性格」創文社 1959年刊(請求記号 612.35 "B")
- 「王の奇跡：王権の超自然的性格に関する研究」刀水書房 1998年刊(請求記号 288.493 "B")
- 「王の二つの身体」平凡社 1992年刊(請求記号 311.23 "K")
- 「煉獄の誕生」法政大学出版局 1988年刊(請求記号 230.4 "L")
- 「民衆と教会」創文社 1975年刊(請求記号 208 "R" 27)
- 「21世紀ルネッサンス」みすず書房 1989年刊(請求記号 230.4 "H")
- 「西洋中世の女たち」人文書院 1992年刊(請求記号 230.4 "E")
- 「中世を生きぬく女たち」白水社 1997年刊(請求記号 367.235 "P")
- 「中世に生きる人々」東京大学出版会 1969年刊(請求記号 230.4 "P")
- 「中世の秋」河出書房新社 1989年刊(請求記号 230.4 "H")
- 「イタリア・ルネッサンスの文化」(「世界の名著45」に所収)中央公論新社 1966年刊(請求記号 081 "S" 45)
- 「宗教改革時代のドイツ史」(「世界の名著 続11巻」に所収)中央公論社 1974年刊(請求記号 080 "S" 11)

## 読みたい本が読める

農学研究科生物生産環境学専攻 博士前期課程1回生 井上智喜

学部・学科に関係なく、本を読むことが好きな学生は多くいらっしゃるかと思います。勉強のため、あるいは趣味にしろ、読みたい本は十人十色でしょう。

附属図書館には、寄贈されたものを含め、小説から専門分野の参考資料まで数多く蔵書されています。しかし、発行年が古かったり、内容が小難しかったりするなど、みんながみんな、読みたい本がそろっているとは、言い難い状況ではないでしょうか？

街の本屋でも有名どころの本は売っていますが、専門の本になると取り寄せになることも多く、全てを個人で購入すると本代もバカになりません。そのため読みたいけど読めない、という取捨選択をしなければいけない事も少なくありませんでした。このような経験をされた方、結構いらっしゃるのではないのでしょうか。

また僕自身、ちょうど卒業論文に取り掛かる学年となり、情報を集めるために専門書等をたくさん読むことになりました。そんな時、附属図書館が行っている「学生希望図書制度」について知り、この1年弱の間に研究に必要な専門書だけでなく、個人的に読んでみたい本も購入してもらいました。

同制度では一般の小説から専門書まで、できる限り学生の希望する図書を図書館に購入してもらえます。そのため、興味があっても買うのはちょっと、というような本や新刊でも、図書館で希望すれば、そのほとんどが購入され、ゆっくり読むことができます。好きな本が読めるだけでなく、早いときで、申込用紙を書いてから1週間ほどで連絡があったときには驚きました。

途中で、こんなにも買ってもらって良いのかな、と思う事もありましたが、「どんどん活用してください。」という一言を職員の方にいただきました。嬉しかったですね。

街の図書館では、希望者が多いのでなかなか購入してもらえません。その点、附属図書館は希望すれば、ほとんど購入してもらえますし、本が届けば、取り置きしてお知らせメールをもらえるので、一番初めに借りる事ができます。

しかし残念ながら、この制度を知らなかったり、上手く活用していない学生が多いと聞きます。正直もったいないと思います。さらに、図書館は読みたい本がなく、ただ静かに勉強できる場所だと思われる方も少なくないでしょう。僕自身、そう思っていた一人です。しかし、それは大間違いです。「読みたい本が無ければ、図書館に蔵書してもらおう！」です。せっかく京都府立大学に入学したので、この便利な制度をどんどん利用しましょう。そうすれば、皆さんの読みたい本も徐々に増えていきます。附属図書館をあなたの手でつくっていきませんか？

- \* 学生希望図書申込書は図書館2階閲覧室入り口に用意しています。
- \* 連絡先(できればメールアドレスを)は忘れず記入してください。



# 2 階閲覧室 第 2 次リニューアル



3 月末の蔵書整理期間中に、昨年度に引き続き、2 階閲覧室の書架の増設工事を行い、資料を移動しました。新規受入図書も続々と書架に並んでいます。ぜひ一度、新しくなった図書館へお越し下さい。

## 《4 つのポイント》

**書架を増設したことにより、2 階閲覧室の開架冊数が約 5,000 冊増えました。**

約 5 万冊      5 万 5 千冊 (2 年連続増加!)

**和書と洋書を合体させました。**

今まで別々の場所に配架されていた和書と洋書を、同じ書架で手に取ることができるようになりました。

**講義で使用されている資料を「府大教科書コーナー」として、2 階閲覧室入り口正面の書架に、順次配架予定です。**

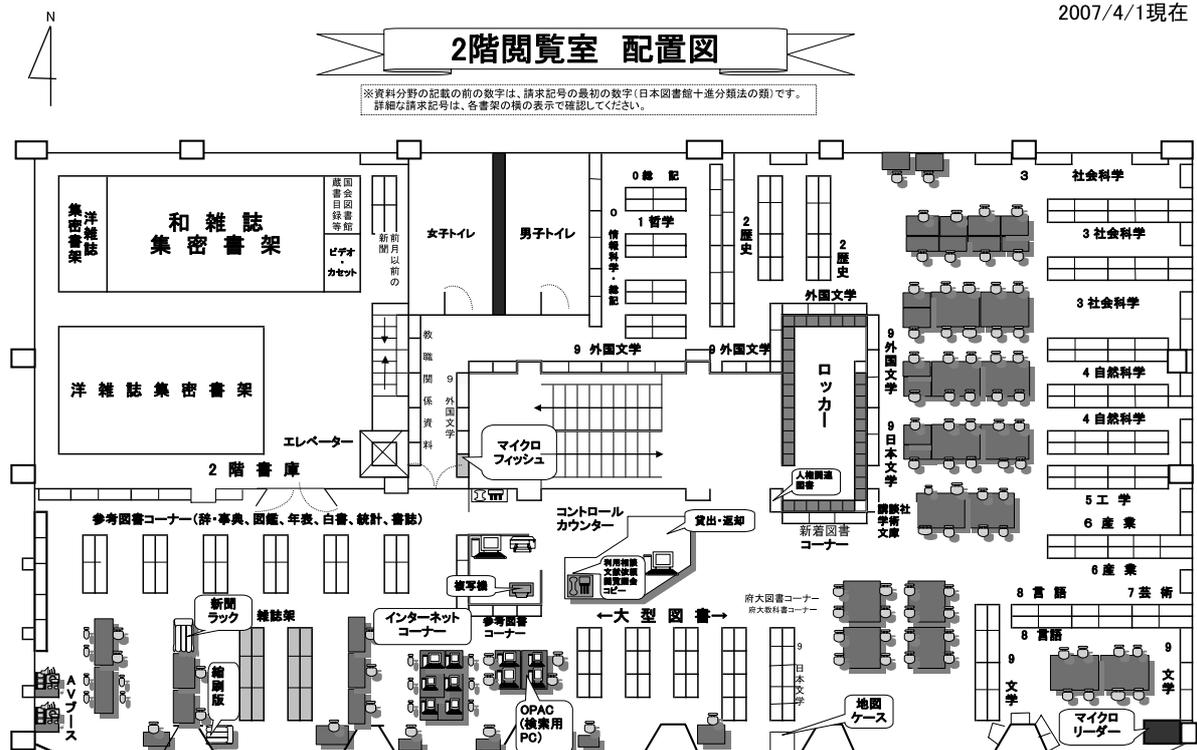
履修等の参考にして下さい。なお、貸出はできませんので、ご了承下さい。

**府大コーナーを 2 階閲覧室入り口正面の書架に移動しました。**

「府大教科書コーナー」と共に、本学に関する資料を閲覧室の入り口の正面のわかりやすい場所にまとめました。

和書と洋書の一体化は、長年の図書館の課題でした。長い間、ご不便をおかけして、申し訳ありませんでした。これで、新しく入った洋書も手に取り易くなったと思います。これからも益々使い易い図書館を目指して努力していきます。

2007/4/1 現在



# 図書館へ行こう！

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。よおし、がんばろう！と、気合十分のこの時期。その勢いで、新入生はもちろん、大学生何年目の人も、みんな図書館をのぞいてみませんか？何かいいものが見つかるかも。出会えるかも。なんかいいこと起こるかも！

## 1. 図書館サービス

新入生は、「図書館利用カード申請書」を記入の上、学生証と一緒に、図書館2階カウンターまでお持ち下さい。図書館利用カードをお渡しします。

### (1) 貸出

利用者区分	1～3回生	4回生・大学院生	教員 非常勤講師	研究生・職員	学外者 (シティーカレッジ履修生・ 単位互換学生・ 府立医大学生教職員)
貸出期間・冊数	2週間 6冊	2週間 6冊 1ヶ月 6冊	2週間 6冊 4ヶ月 20冊	2週間 6冊	2週間 6冊

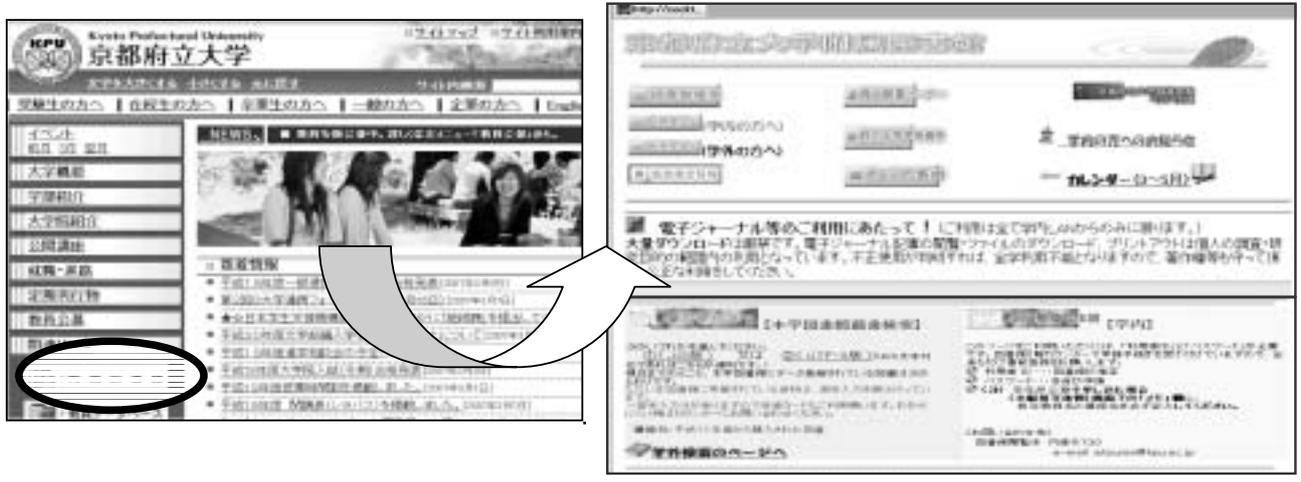
休業中は貸出期間を延長します。  
 予約が入らない限り、何度でも同じ資料を借りられます(貸出期間内に本を持参し、カウンターで手続きを受けて下さい)。  
 延滞にはくれぐれもご注意ください！1日でも、1冊でも延滞がある利用者は、新たな貸出が受けられません。

(2) レファレンス.....利用者と資料を結びつけるための相談に応じています。  
 「資料が見つからない。」「探し方がわからない。」「もっと他にいい資料があるのでは?」「何に自分の欲しいものが載っているのかわからない」etc. 困った時は、図書館カウンターへ遠慮なくおたずね下さい。

(3) 相互利用サービス .....本学に所蔵していない資料の入手のお手伝いをします。  
 他大学への閲覧照会(大学ごとに詳細が異なります。まずは、図書館カウンターへご相談ください)  
 学外からの図書・コピーの取り寄せ(実費が必要です)

## 2. 図書館ホームページ <http://cocktail.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html>

大学HPの画面左側メニュー左側の **附属図書館** からアクセスしてください。



### 3. 資料の配架一覧 (図書館内)

場所	2階閲覧室	1階書庫	3階書庫	東書庫 1	東書庫 2
	中央の階段を上ったところ	2階閲覧室の奥(2階書庫入口右手)のエレベーターで移動 [学内者は出入り自由]			1階のホール東側(事務室向かい) (階段向かい側) (デニスコート側) [通常は施錠(カウンターに鍵あり)]
図書の背ラベル	白地に紺枠(あるいは緑枠)	請求記号のラベル3段目が黄色	請求記号のラベル3段目が黄色	請求記号のラベルの最下部に " 白田文庫 "と記載あり (書庫表示の黄色はなし)	
OPACの表示(図書)	開架 開架大型 教科書・教職 府大コーナー 府大教科書 参考 2階書庫	1階書庫	3階書庫 3階書庫(文庫・新書) 3階書庫(大型) 3階書庫(特大) 3階書庫(教科書) 3階書庫(府大資料) 沖田文庫(3階書庫)	東書庫 白田文庫(東書庫)	東書庫
図書	注意! OPACの表示は全て開架だが、 別置しているものあり。 ・人権関連図書コーナー ・講談社学術文庫	・人文社会科学関係 の和書 (請求記号) 0-3, 8-9	・自然科学・産業関係の和書 (請求記号) 4-6 ・洋書・大型・文庫は全分野 ・四庫全書 ・中国近代史料叢刊 正・續	白田文庫 (白田氏寄贈の英米文学関係資料) 壁面に和洋別に一連番号順に配架 洋... 北側から 和...(洋の後、東側)	
雑誌・新聞等	(閲覧室内) ・利用の多い雑誌 本年分 ・今月分の新聞 ・朝日新聞縮刷版の過去1年分 (北側の集密書架) ・一部の和雑誌のバックナンバー ・過去1年分の新聞 ・洋雑誌の1976年発行以降の バックナンバー(例外もあり)		・新聞の縮刷版(朝日)	・多くの和雑誌のバックナンバー (ただし、2階に配架されているもの あり。 要OPAC参照) ・1975年以前の洋雑誌 ・統計書 (京都府統計書等、図書扱いのもの は、それぞれの分類へ)	・官報 ・京都府公報 ・出版社等のPR誌 (例:『図書』『ちくま』など) ・新聞の縮刷版 (京都・日経) ・東洋史、西洋文化史の研究室に置 けない雑誌 ・昆虫、果樹、土壌、植物、生物、食物 関連の雑誌の一部(和・洋とも) ・洋雑誌の一部の1976-90年発行分 ・Biochemica et Biophysica Acta ・Biopolymer ・Journal of Biological Chemistry

資料の検索結果には、研究室所蔵資料も出てきますのでご注意ください。

### 4. 設備など

#### (1) コピー機

2階閲覧室の事務スペース内にあり。

図書館が所蔵する資料を、著作権の範囲内で複写可能(モノクロのみ/1枚10円 要申込書)  
ノートや私物のコピーはできません。

#### (2) PC

- ・OPAC(資料情報検索用)3台 資料検索結果のみプリントアウトできます。  
(電子ジャーナルのプリントアウトには申込が必要です。)
- ・インターネットコーナー 6台 大学のLAN経由ということを念頭に置き、自由にご利用下さい。  
文書作成のためのPCはありません。また、持込ディスク、ソフト等の利用はできません。

#### (3) 3階各室

- ・自習室 ..... 荷物持込可。
- ・個人閲覧室(一人で勉強するスペース) 4室(要事前申込・当日でも可)
- ・共同研究室(15人程度までのゼミや学習会用) 2室(要事前申込・当日でも可)

### 5. 利用のマナー

館内は全館(3階自習室・各部屋含む)喫煙はもちろん、飲食もできません。ペットボトル等はバッグの中に入れてください。

2階閲覧室へは、バッグ類の持込はできません。2階階段を上ったところにロッカー室がありますので、ご利用下さい。なお、貴重品の管理は、各自で十分気をつけていただきますようお願いいたします。

2階閲覧室に入室の際、持ち込み図書に、冊数に応じた札をはさんでください。図書館の本と区別するために必要です。

館内では静かにしてください。携帯電話は音が出ないようにし、通話をご遠慮ください。パソコンの持ち込みは、利用環境がありませんので、ご遠慮ください。

図書館の資料は、大切な共有財産です。丁寧に取り扱いして下さい。

# 図書館日誌

## 附属図書館運営委員会ワーキンググループ会議開催報告

### 電子ジャーナルワーキンググループ会議

3月14日(水)に事務棟2階の応接室で開催されました。

前回の会議で検討事項となっていた新聞記事オンラインデータベースの導入については、無料トライアルを実施した結果、朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵 ビジュアル」を導入すること、継続の「Academic Search Elite」をグレードの高い「Academic Search Premier」へ移行することが確認がされました。

これにより平成19年度は、「SpringerLink」、「Academic Search Premier」、学部から要望のあった「The Times Digital Archive 1785-1985」、「American Chemical Society Web Editions」、「聞蔵 ビジュアル」を購読することで、経費については全学共通教育研究費をお願いすることになりました。なお、新規導入や移行については全学共通教育研究費の採択の状況によっては、新規導入の再検討や研究費からの経費負担を含め、改めて検討することを確認しました。

「サイエンス・ダイレクト」については、購読誌に付いていた無料電子版が2008年4月から中止されることになり、電子版を読むには別料金が必要である旨事務局から報告があり、この取扱については教員会議で検討をお願いすることになりました。

### 選書ワーキンググループ会議

3月15日(木)附属図書館3階の控室で開催されました。

事務局から、書架を増設し来年度から府大教育のテキストコーナーを設置することや、今年度から取り組んだ教員選書の結果等について報告がありました。

平成19年度の選書指針を、今年度の学生(学部生を中心とする。)に対する自主的な「学び」と「しらべ」の支援を基本としつつ多様な読書要求にも応えられるようにする。(「教育・学習支援機能」の役割を果たす。)各教科書の参考図書、講義で紹介されている単行書レベルの参考資料の全点購入を目指すことを踏襲する。選書リストの提出期限を夏休み前とすることが決まりました。

附属図書館長から、今年度の反省として、教員会議で学習基本図書を選書することや選書リストの提出についての徹底を図ってもらいたい旨の要望がだされました。また、貸出冊数が過去最高の約20,000冊となることや、学生希望図書制度の申込の増加したことについて、教員、図書館職員の努力の結果であるとの謝辞がありました。

## カレンダー

2007年4月							2007年5月							2007年6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	30	30

【4/2(月)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】

【~4/11(水)春休み長期貸出図書返却期限】

【4/29(日)昭和の日】【4/30(月)振替休日】

【5/1(火)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】

【5/3(木)憲法記念日】【5/4(金)みどりの日】

【5/5(土)こどもの日】

【6/1(金)~通常貸出実施 (貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)】

開館時間等	
通常開館	9:00 - 20:00
春期休業 (2/13~4/11)	9:00 - 16:45
休館日	土・日・祝祭日

**お知らせ**

図書貸出、文献複写、一時持出や他校への閲覧依頼等、「図書館サービス」を受けていただくためには「図書館利用カード」の提示が必要です。貸出図書は予約が入っていない限り、期間延長できますので、期限切れまでに返却したうえで、あらためて貸出手続きをしてください。

**新入生の皆さん**

**ご入学おめでとうございます。**

図書館をご利用いただく際には「図書館利用カード」が必ず必要です。初回御利用の時までに本学の学生証を持って、2階閲覧室カウンターへ申請書を提出ください。

**他大学利用の際のお願い**

他大学の図書館を利用される際には、原則として、所属図書館を通じた事前照会が必要です。他校所蔵資料の複写依頼や資料貸借等の方法は各々学校で取り決めてあります。お互いにルールを守って参加することで、スムーズに利用出来るようになる制度ですので、係員の指示には、どうぞ協力ください。閲覧希望日の遅くとも1日前までに、府大図書館の2階閲覧室カウンターで手続きをしてください。